

編 集 委 員

岡 崎 敏 雄	筑波大学名誉教授
文 野 峯 子	人間環境大学教授
古 川 嘉 子	国際交流基金日本語国際センター専任講師
木 谷 直 之	国際交流基金日本語国際センター専任講師
北 村 武 士	国際交流基金日本語国際センター専任講師
登 里 民 子	国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員

(※太字は編集委員長)

執 筆 者 一 覧

・日本語国際センター

専任講師

磯 村 一 弘

羽 吹 幸

事業化開発チーム職員

長 田 優 子

・関西国際センター

日本語教育専門員

川 嶋 恵 子

田 中 哲 哉

専任司書

畠 中 朋 子

浜 口 美由紀

非常勤講師

前 田 純 子

・国際交流基金（海外派遣）日本語専門家等 （※所属別五十音順）

松 浦 とも子

（北京日本文化センター）

柳 坪 幸 佳

（北京日本文化センター）

大 船 ちさと

（マニラ日本文化センター）

須 摩 亜由子

（マニラ日本文化センター）

松 井 孝 浩

（マニラ日本文化センター）

エフィ ルシアナ

（ジャカルタ日本文化センター）

尾 崎 裕 子

（ジャカルタ日本文化センター）

渋谷 実 希

（バンコク日本文化センター）

中 尾 有 岐

（クアラルンプール日本文化センター）

藤 長 かおる

（クアラルンプール日本文化センター）

竹 村 徳 倫

（ニューデリー日本文化センター）

熊 野 七 絵

（マドリード日本文化センター）

伊 藤 秀 明

（ケルン日本文化会館）

蜂須賀 真希子

（パリ日本文化会館）

佐 藤 修

（キング・サウード大学）

・その他 （※五十音順）

秋 山 佳 世

（元ジャカルタ日本文化センター日本語専門家）

イリーナ・プーリク

（ロシア・ノボシビルスク市立「シベリア・北海道文化センター」副センター長）

山 口 紀 子

（元ノボシビルスク国立大学日本語専門家）

リュドミラ・ミロノワ

（ロシア・ノボシビルスク市立「シベリア・北海道文化センター」日本語教員）

和 栗 夏 海

（大阪大学非常勤講師）

査読協力者一覧

生 田 守	磯 村 一 弘	押 尾 和 美	来 嶋 洋 美
木 田 真 理	久保田 美 子	篠 崎 摂 子	柴 原 智 代
坪 山 由美子	布 尾 勝一郎	根 津 誠	八 田 直 美
築 島 史 恵			

(※国際交流基金日本語国際センター専任講師／五十音順)

編 集 後 記

『国際交流基金日本語教育紀要』第9号には計22本の論文の投稿がありました。国際交流基金の活動の幅広さを反映して、世界の様々な地域の日本語教育に関する論考や報告が集まりました。特に、海外の中等教育に焦点を当てた実践報告が多く、世界の中等教育レベルでの日本語教育では、現地教育行政とのつながりの中で多様な取り組みが行われている様相が伝わってきます。広い地域での教育を実現するための ICT (Information and Communication Technology) に関する報告も多数ありました。さらに、JF 日本語教育スタンダードを用いた研究や分析も多く見られ、JF 日本語教育スタンダードが各現場の内省と対話のツールとして機能していることがわかります。また、教育現場の実像をより深く分析することを目指し、質的研究法を用いた意欲的な投稿も増えてきました。そのような状況も考慮し、今号から編集委員のみでなく査読協力者の協力も得て、投稿された論文を深く読み込み、より客観的で適切な評価を行っていくために、主査・副査で審査を行う体制を整えました。査読の過程では、①研究や実践の内容が明確に伝えられていること、②先行研究の検討と調査・研究方法が適切であること、③考察の結果、日本語教育の発展に資する情報や知見に至って、それらを提示していることなど、多様な観点から編集委員会が審査を行った結果、いずれも貴重な投稿論文の中から計11本が今号に掲載されることとなりました。本紀要を通じて、現在の国際交流基金の日本語教育事業への取り組みを少しでも皆様にご紹介することができましたら幸甚に存じます。

古 川 嘉 子 (『国際交流基金日本語教育紀要』編集委員長)